

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373100835		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	グループホームやすらぎの里 にしき		
所在地	熊本県球磨郡錦町西鳥越 141番地		
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年4月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、入居者のそれぞれの個性を尊重しながら、思いをくみ取り、意向に沿った介護を目指している。ホール、居室内は自由に行き来される様に見守り続けている。園庭でのお茶会等の行事を取り入れ、ホーム内での生活にメリハリが出るように計画している。毎月の誕生日会も実施し、歌や、踊り、手品、都合がつけば地域のボランティアに訪問していただき、特技を披露していただいています。※コロナの影響で外部接触はしていません。年間を通して、地域間との交流を深める事も重要と思われ、状況に応じて参加をして頂き、日常生活の活性化にも繋がる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の変更により、記録物の見直しによりケア充実を図り、介護計画書を作成するに当たり新たにアセスメントから見直しする等新たなる基盤作りにスタートしたホームである。これまで築いてきた近隣との関係性や消防団との関係は息づき、大人数で防災訓練を行う等危機管理を高めて望んでいる。入居者は認知症のみならず透析を受ける方もあり、職員は「目配り・気配り・心配り」の徹底や、日々健康管理に努めるとともに、入居者の生活に、楽しみにされることは何か、何がしたいのか等々入居者視線で検討している。コロナ禍で外出の制限に、園庭を活用する等今できる最大限の支援に努めている。今後も、職員の働きやすい・やりがいのある職場として、地域の中で和やかな生活が継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各部署に理念を掲げ、職員一同、共有した実践を行っている。	毎朝の申し送り時に、目配り・気配りに注視したしたケアに努めることや、認知症を理解し支援することの重要性を指導している。また、毎月の全体会議の中で理念に触れ、意識を強化させている。	新年度にあたり、次のステップに向け目標を立てたいとしており、全員で目標を立て、理念及び目標を振り返る機会を作られることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事や地域の行事について、交流を図る意欲と努力はしているが、利用者様の介護の重度化に伴い困難な面があり、それぞれの交流を受け入れて交流の場としている。	隣近所とのお付き合い等(花や筍等の差し入れ)これまで通りの近隣住民との関係を継続し、美化活動への参加や、地域のグラウンドゴルフの協賛、消防団の参加による避難訓練も行われているが、コロナ禍により、入居者と地域住民との交流は控えている状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポータ活動や敬老会でのグラウンドゴルフ開催の参加等を行っている。自治会への加入、美化活動等は主に職員の参加で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議の開催に於いて、行政職員、社協、包括支援センター、区長、民生委員、家族、入居者参加で施設の状況説明や意見交換などで質問や意見が出た場合は、翌日の朝礼で周知するようにしている。	町役場や地域包括支援センター、第一分館長、民生委員等をメンバーとして、入居者一人ひとりの状況の他、防災対策や身体拘束適正化委員会として資料を基にした説明等により意見交換が行われている。またコロナ禍により行政に許可を得て書面での開催とした回もあり、意見や要望を引き出す工夫として報告書を郵送し、次のステップに反映させるとしている。	運営推進会議がサービス向上に活かされており、家族へも情報の発信源として議事録を送付されることを検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に於いては、行政からの出席があり、逐一事業内容や実情を報告し、入居者についてもケアの状況を報告し相談をしている。町役場の担当者に於いてはお互いに情報のやり取りを常に行っている。	役場による運営推進会議開催の手引きを基にした開催や、実地指導により現状の見直し、役場に出向いて指導やアドバイスを得る等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より、身体拘束をしないように意識を持ち、拘束についての理解が周知できるように、指導に努めている。	毎月、身体拘束の五つの方針・三つの原則等について資料を基にした勉強会を行うことで周知徹底を図っている。転倒防止(ADLの低下)による夜間のセンサー使用(家族の同意を得ている)や多動などもあり、職員は理念で謳う「見守り・気配り」を徹底している。職員の言葉遣いについて、語尾が荒くなること等注意喚起すると共に、電話対応では顔が見えない分特に注意することとしている。	今後も、職員同士が言葉遣いなど注意喚起できる環境を目指すホームであることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の尊厳等を重点に挙げ、虐待防止については、日々、職員間で互いに防止の周知を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間での学習・研修等は現在なされていないが行政や他事業所での研修会には参加している。必要に応じて勉強会の機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込み時・契約時や改訂時には、重要説明事項と共に十分な説明を行い、家族、身元引受人様よりの情報をもらい、できるだけ本人の今までの生活を維持できる支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面で意見などを頂き、職員会議などで公表し、運営に反映させている。	家族との交流や対面での面会は難しい現状にあり、家族からの電話や家族の顔を見たいとの希望に宥越し面会として、訪問時に要望等を聞き取りしている。また、家族との交流が出来ないことを踏まえ、経過記録の送付等により情報を発信している。	家族との対面も難しい状況にあり、家族も不安であろうと思われる。この時期だからこそ、家族との密なコミュニケーションを図って頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(全体会議)を設け、意見交換、提案などを発表し、取り入れながら行っている。	全体会議時に委員会の報告や職員の意見・提案を聞き取りし、全員で検討している。また、個人的な申し出も有り、上層部に報告し、解決を図るとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体的な把握は部長、事務長にて行い職場環境、条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の入れ替わりで個々の実情が把握しにくい面があったり、管理者においては、事務作業に追われ、なかなか指導できないのが実情である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのグループホームブロック会に参加し、情報交換や行事に参加することを勧めているが勤務の都合上参加する人数が少なく、勉強会などは積極的に参加するように指導していきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、ご本人、家族、関係者から病歴、生活歴などを伺い、本人の安心や快活な生活ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際には本人の要望より、家族の困りごことが多い。家族の話を傾聴し、連携して施設生活を送れる事等を説明し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所となった経緯を把握し、本人と家族が必要としている支援を見極め、本人に寄り添った対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気が持てるように、本人の能力に応じた声掛け、見守りを行い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、経過記録を家族に送り、入居中の出来事をそのまま報告し、状況を理解してもらっており、心配される場合は面会や電話での問い合わせなどで対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の地域での交流があった方々の訪問はあり、馴染みの理美容室への送迎を行い、やりたい事や行きたい所へはできるだけ意向に沿うように努力している。	これまでは知人の訪問や馴染みの美容室を利用する入居者もおられたが、本年はコロナ発生の為、外部との交流は行っていない。	コロナ感染症の収束が見えてきたら、これまでの関わりのある人・場所への外出などを支援頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性や性質等を考え、配慮して環境を設定し、できるだけお互いの顔が見えるようにホールの居場所を設定している。お互いの孤独感を感じられない様に空間を提供している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状悪化での死亡による契約解除が主である。病院入院や転院などに於いては、機会を見て面会を行い、家族や本人の状況に応じた支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な方は、傾聴し受容に努め、意思表示ができない方は、表情や、動き、しぐさの読み取りに努めている。	自分から発信される入居者もおられ、職員が寄り添いながら思いなどを聞き取りしている。また、言葉に出来ない方には話題を提供し、笑顔を引き出すよう努めている。入居者個々のタイミングでの話しかけや、「イエス・ノー」で返答できるような会話に努め、時にはしぐさや表情などから推察し、本人本位になるよう検討しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、関係者、本人からの生活歴の情報を得て、できるだけ今までの暮らしの内容を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状況や、持っている強みを把握して支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成とモニタリング作成時は、利用者の把握に努め、ケア会議にて検討し見極めを行ってケアプランを作成している。	ホーム長の変更に伴い全ての入居者のアセスメントからの見直しや、半年毎の見直し時に家族に書面により要望等を聞き取りしている。短期目標3ヶ月毎に職員の意見を踏まえ変更する事案があれば見直すとともに、半年毎に見直し等により実現可能な新たなプランを作成している。更に、ホームは入居者個々が楽しめるところで有り、プランに組み入れたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で申し送りを行い、個々の変化に対応できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や主治医、行政等と日頃より連携を図り、地域推進会議なども含みつつ、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、ボランティアや図書館の読み聞かせ、介護相談員来訪の利用はあるが、積極的な外部への働きかけは難しい状況である。隣保班に於いては、近隣の方や消防団の方が積極的に応援に来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月主治医の定期受診に加えて、状態不良時は主治医に連絡、すぐに専門科などの手配してもらい、適切な診療が受けられるように主治医との連携を密にしている。	現在、本人・家族の了承のもと、全員が定期受診として、何かあればその都度連絡し、相談に応じてもらうとともに、昼夜を問わず対応してもらう等連携が取れている。皮膚科や眼科など専門医の受診は、主治医の紹介状により主に看護職員が付き添い、適切な医療を支援している。また、入居者の中には定期の医療を必要とされる方もおられ、個々の状態観察から早期の異常発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は状態変化が見られた場合はすぐに看護師に報告し、看護師は主治医に連絡を取り、適切な対応を行っている。准看護師一名にて、24時間オンコール体制にて対応し、主治医も24時間対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、医療関係者(SW等含む)と密に連携を行い、安心した入院生活や退院後の生活がスムーズに行くように、家族や本人に説明を行い、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約時には、重度化や終末期に家族がどのように望まれるかを書面にて確認し、事態が起きた場合には、家族に状況説明を行い、再度、意向確認を行って希望に沿った対応を洲様にしている。	入居時に終末期に関するホームの指針をもとに説明し、医療中心になると対応が難しいがホームで可能な限り看取りに応じることとしている。また、主治医の判断と家族への説明により状態変化に対する同意書を交わし、家族は、最終まで希望される方が多く、看取り期に入ると家族と連携を図り支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、看護師絵連絡し、24時間オンコール体制を取っている為、対応も可能である。その場の対応指示や、主治医への連絡調整も看護師が行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所が遠く、緊急の場合は園庭に避難して救助を待つようにしている。火災などの場合は近隣の住民の協力もあり、消防団の協力も得られている。	人吉地方を襲った豪雨時にはホームには被害は無かったものの、職員が被災している。災害時の避難場所としてコミュニティセンターが指定されているが、距離的に避難が難しく一カ所に避難したのち、援助を待つ事としている。火災を想定した訓練時には、地域や消防団の協力を得て総勢47名が参加されている。また、各ユニットに備蓄し有事に備えている。	公的な避難経路について、役場からのアドバイスもあり、職員が落ち着いて誘導できるよう今後も継続した訓練に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を重視して、人格尊重した声かけ、行動を行い、入浴、排泄介助時には自尊心を考慮しながら対応に努めている。	入居者の認知状況に合わせたケアに努めるとともに、尊敬の念を持って当たっている。入居時に個人情報の取り扱いや、写真掲載について説明し、同意書を交わしている。また、職員にも個人情報の漏洩や守秘義務を徹底させ、居室に名前を掲示していることも家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症進行、高齢化を伴い、意思表示や自己決定することが難しくなっているが、促したり等をして働きかけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを把握しながら、その方が穏やかに暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関しては、関心が殆ど無い方が全体的にあり、口腔ケア、詰きり、髭剃り、散髪など、それぞれに対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「楽しむ」事への関心はなかなか得る事は無い。しかし、献立や味等の説明をしたりして、食事を感じて頂けるように市有縁している。	食事は業者による調理済みの料理をホームで適温にして提供している。その日のメニューをホワイトボードに記載して紹介し、食前の口腔体操により食への意欲を引き出している。職員は嚥下状態や食の進み具合を確認し、介助しながら会話で楽しんでいる。	入居者が直接食へ関わる事は少なく、地域からの差し入れ野菜を目で見て旬を感じたり、好みの料理を献立に反映出来る様な体制作りに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ栄養バランスのとれた献立を作成し、個々の嚥下状態を把握して配膳し、水分摂取も重要と受け止め、お茶や味噌汁等必要量の摂取に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行い、出来ない所や、義歯の管理、介助は職員が行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思表示ができる方は、誘導したりして出来ない所を介助支援し、意思表示ができない方は時間帯で声掛けを行いながら、トイレやポータブルトイレ、パッドの交換などを行い、排泄行為への感覚を保持するようにしている。	トイレへの意思表示が出来る方へは声掛け・誘導し、トイレでの排泄を支援している。その他の入居者へは時間的な誘導や、習慣を把握しトイレへの誘導や排泄用品を交換している。夜間帯にポータブルトイレを使用される方には転倒などのリスクに注意しながら、衛生的に使用されるよう管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の記録でチェックし、状況に応じて主治医指示のもと処方薬を内服したり、日頃より水分補給の促しや、毎日のラジオ体操での運動などで予防の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をおこなっている。入浴拒否をされ、介護に困難さもあるが、タイミングや時間をずらす等している。	入浴は週2回を基本として、排泄の失敗や汚染時にはシャワー浴にて清潔保持に努めている。職員が声掛けのタイミングに工夫した結果、今は入浴を拒否されることも無く、気持ちの良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人、お一人の体調に合わせて休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は看護業務が行い、内服前に、本人の確認をして内服してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる人には役割をもってお願いしている。日光浴等は気分転換のためにも、園庭で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節などに応じて外出はしているが、本年はコロナの影響で控えている。	今年度は外出の機会が少なく、園庭を中心に戸外活動を取り入れている。桜や季節の草花、畑の草取りや周辺の竹林を眺めたり、日光浴等を楽しんでいる。コロナ感染症の制約の中で、今できる最大限の支援に努めている。	コロナ収束後には、家族に協力を依頼し、近場への外出や、園庭の散歩等出来ることで入居者との時間を作って頂く事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おかねにかんしては基本的に所持しないように、している。お金の要望をされる方もいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話で家族と話すことはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や写真を飾ったりしている。ホール内はBGMを流したり、カラオケを楽しんでもらっている。	入居者は日中の大半をリビングで過ごされており、定位置から見える桜や移りゆく木々の変化を楽しんでいる。カラオケが日課となり、それぞれに好きな曲を受かったり、手拍子をとりながらひとときを過ごされる方や、塗り絵やソファーで横になる方等自由な空間での穏やかな生活である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の個性や状態などを考慮して、席を提供し、トラブル回避をおこない、穏やかな一日を追ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具、持ち物は、馴染みのものを配置して、安心できる空間の配慮を行っている。	入居時に持ち込みの品について居室に入ると安心されるような物や、身の回りの物、必需品を持参してもらうよう依頼している。寝具は個々に準備され、仏壇や位牌、写真集やバッグなどこだわりのある物が持ち込まれ、安心出来るようレイアウトされている。定期的なシーツ交換や、布団干しにより清潔且つ安眠に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単な家事(洗濯量)などや、車いすの自走ができる方は時分ですて頂く等を行い、見守り強化して施設内の散策を支援する。		